

次期計画策定へ向けての課題

分野	まとめ	社会動向等		伊勢市の環境の現状		取組状況調査結果		市民等意識調査結果	
		現状と課題	キーワード	現状と課題	キーワード	現状と課題	キーワード	現状と課題	キーワード
低炭素分野	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民・事業者による身の回りにおける省エネ行動を継続・強化していくことが必要。 ● 地域の多様な課題やニーズに応える低炭素な地域づくりを進めることが必要。 ● 環境負荷の少ない公共交通の整備や、多様なモビリティとの連携、次世代自動車の普及など、低炭素なまちづくりを図る必要がある。 ● 気候変動による影響への対応を進めることが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● パリ協定、国の温室効果ガス排出削減目標との整合に留意した目標設定や施策が必要。 ● 電力自由化などを踏まえ、低炭素な電力の活用、地域単位の電力供給およびエネルギーマネジメントなどの仕組みの活用を検討が必要。 ● 気候変動による影響への備えとしても、再生可能エネルギーの導入やエネルギーの自立などの検討が必要。 ● 次世代自動車、水素・燃料電池、ZEB・ZEHなどの最新の環境技術を取り入れたまちづくりが必要。 ● 新たな関係法令（建築物省エネ法、フロン回収・破壊法など）への準拠を図っていくことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 新たな温室効果ガス削減目標 ✓ 省エネルギーの推進 ✓ 気候変動への適応策 ✓ 再生可能エネルギーの活用 ✓ 最新の省エネルギー技術の活用 ✓ 関係法令への準拠 	<ul style="list-style-type: none"> ● 産業や業務によるCO₂排出量が多く、事業活動に伴う環境負荷を抑制することが必要。引き続き省エネルギー行動を継続・強化していくことに加え、排出の場面や取組主体を超えた継続的な対策が求められる。 ● 単身や高齢者世帯の増加による、一人当たりのエネルギー使用量の増加が想定されるため、環境負荷低減策の検討が必要。 ● 伊勢市では、太陽光発電の導入が進んでいる一方で、景観への影響が懸念される。市の特性に合わせて景観への影響をできる限り回避・低減する必要がある。 ● 自動車交通への依存を軽減していくと同時に、環境に配慮した車両の選択や運転を推進することが求められる。 ● 地球温暖化に伴い想定される気候変動によるリスクに対する備えが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 省エネルギーの推進（再掲） ✓ 居住者の多様化や高齢化への対応 ✓ 地域に調和した再エネ対策の推進 ✓ モビリティ政策の強化 ✓ 気候変動への適応策（再掲） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新たな国の方針や社会動向を踏まえつつ、再生可能エネルギーの導入の方向性の見直しや次世代自動車の更なる導入を図る必要がある。 ● 市民のニーズや社会動向を踏まえた低炭素社会づくりを推進する必要がある。 ● よりCO₂排出量の少ない公共交通機関利用へのシフトの意識や関心が高まっているため、地域公共交通事業の充実と公共交通機関への利用促進を図る必要がある。 ● 低炭素社会への転換をめざし、省エネ機器等への更新・導入を継続して実施する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 再生可能エネルギーの活用（再掲） ✓ 次世代自動車の普及促進 ✓ 市民のニーズや社会動向の対応 ✓ モビリティ政策の強化（再掲） ✓ 省エネルギーの推進（再掲） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 身近な省エネ行動の定着が見受けられることから、今後も継続して普及啓発を保持していく必要がある。（市民・学生アンケート「問5環境保全の取組状況について」資料1-3,P7,42より） ● 省エネによる経費の削減は、事業活動に直接関わることから、事業者における環境取組の大きな動機になっていると考えられる。（事業所アンケート「問5環境保全に取り組むメリットについて」より資料1-3,P25） ● 地域公共交通が充実しているまちの姿を重視する傾向が強くなっている。（市民アンケート「問10伊勢市がめざすまちの姿について」資料1-3,P15より） ● 再生可能エネルギーを積極的に利用しているまちの姿が最も重視されている。（学生アンケート「問10伊勢市がめざすまちの姿について」資料1-3,P50より） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 身近な環境配慮行動の推進 ✓ 省エネルギーの推進（再掲） ✓ モビリティ政策の強化（再掲） ✓ 再生可能エネルギーの活用（再掲）
資源循環分野	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後も継続して、家庭や事業所におけるごみ減量、再使用、分別・資源回収を定着させていくことが必要。 ● 家庭ごみの減量に向けた指導や啓発などの更なる取組が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市の地域特性に応じて、循環可能な資源はなるべく地域内で循環させるため、最適な規模の「地域循環圏」を構築することが重要 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域循環 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内のごみ搬入量は減少傾向が見られないため、今後も継続して、家庭や事業所におけるごみ減量、再使用、分別・資源回収を定着させていくことが必要である。 ● ごみの大部分を燃えるごみが占めており、食品ロス削減に向けた取組を推進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 廃棄物の削減・資源化の推進 ✓ 食品ロス 	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃えるごみの量の目標達成状況が難しい状況もあり、ごみの減量・資源化に関する事業を強化し、市民・事業者の意識の更なる向上を図る必要がある。 ● さらなるごみの減量に向けて、食品ロスの削減に関する施策や雑がみの分別の定着化・習慣化を促進させるための事業を継続して実施していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 廃棄物の削減・資源化の推進（再掲） ✓ 食品ロス（再掲） ✓ 雑がみの分別 	<ul style="list-style-type: none"> ● リサイクル・廃棄物削減についての取組を今後も継続して普及啓発を保持していく必要がある。（市民・学生アンケート「問5環境保全の取組状況について」資料1-3,P7,42より） ● ごみの発生を抑制し、資源の有効活用しているまちの姿を重視する傾向が強くなっている。（市民・学生アンケート「問10伊勢市がめざすまちの姿について」資料1-3,P15,50より） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 廃棄物の削減・資源化の推進（再掲）

分野	まとめ	社会動向等		伊勢市の環境の現状		取組状況調査結果		市民等意識調査結果	
		現状と課題	キーワード	現状と課題	キーワード	現状と課題	キーワード	現状と課題	キーワード
自然環境分野	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様な生物の生息地や良好な景観の形成等の公益的機能を有する森林や農地等の保全を継続して実施する必要がある。 ● 生物多様性に配慮し、質の高いみどりを創出し、自然との共生を図ることが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市におけるみどりの創出などによって快適に過ごせるまちづくりを進めるとともに、区民への生物多様性の理解促進を図り、都市における自然と人間の共生を進めていくことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓緑化による快適な都市空間 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内の貴重な動物・植物を保全することに加え、生物多様性の視点も考慮し、都市部における人と生物の共生への配慮を進める必要がある。 ● 地域ごとに多様な自然環境を有しており、これらの地域資源や地域特性を生かしていくことが必要。 ● 農業・漁業の特色を活かした景観が広がっているものの、後継者不足等により、農地においては遊休農地化が進行している地域もみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓生物多様性に関する理解促進・普及啓発 ✓多様な自然資源 ✓良好な景観保全 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生物多様性への理解・認識は高いとは言えないため、生物多様性に関する認知度向上に向けた取組が必要。 ● 有識者・企業・三重県等、多様な主体と連携した生物多様性の保全を推進する必要がある ● 森林の有する保全林、環境林の持つ機能の向上を継続して図る。 ● より効果的に推進するための自然体験や自然保護に関する取組が必要。 ● 多面的機能支払活動組織数の目標達成が厳しい状況にあることから、更なる活動組織の増加を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓生物多様性に関する理解促進・普及啓発（再掲） ✓様々な主体の参画と活躍 ✓公益的機能の向上 ✓自然とふれあう機会の拡充 ✓農村地域の共同活動の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生態系とのふれあいへの改善を求める傾向が見られる。（市民アンケート「問4 伊勢市の現在の環境に対する満足度および重要度について」資料1-3P3より） ● 自然保護に関する取組について、今後の取組検討していることから、自然保護活動への参加を促すための対策を検討する必要がある。（学生アンケート「問7 環境保全に関連した市民活動への取組状況について」資料1-3P46より） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓自然とふれあう機会の拡充（再掲） ✓様々な主体の参画と活躍（再掲）
生活環境分野	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民や事業者、学生では快適・安全社会の実現を望む意見が多く、身近な生活環境の改善による市民の安心・安全性の向上が必要。 ● 公害対策については、引き続き継続して実施するとともに、広域的な把握・対策が求められることから、関連自治体などと連携した情報収集や対策が必要。 ● 街なみの清潔さ、美しさ、歴史的・文化的雰囲気や良好な景観を形成する必要がある。 ● 環境文化の適切な保全と発展および発信に努める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公害の防止、良好な生活環境の維持を引き続き推進するとともに、都市型災害に強い安全なまちづくりを進めていくことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓安全安心な生活環境 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大気環境や騒音振動に関する環境基準は概ね達成しているが、苦情は経年的に寄せられており、対策を継続して実施することで、市民の健康、安心・安全のため、良好な生活環境を維持していく必要がある。 ● 広域大気汚染で光化学オキシダントは、国や三重県、周辺他区と連携した広域的な視点での対策が求められる。 ● 勢田川の水質は他の河川と比較すると、その水質汚濁の状況はまだまだ顕著であるため、生活環境の保全と公衆衛生の向上を図る必要がある。 ● 地域ごとに多様な文化的資源を有しており、これらの地域資源や地域特性を生かす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓安全安心な生活環境（再掲） ✓広域的な大気対策 ✓生活環境の保全 ✓公衆衛生の向上 ✓多様な文化的資源 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少や少子高齢化に伴い、今後増加することが見込まれるため、更なる空家等対策の推進を図る必要がある。 ● 公害対策を継続して実施し、良好な生活環境の確保を目的とした取組を進める必要がある。 ● 都市・快適環境の向上に関する取組を継続して実施しており、人口減少や少子高齢化の問題に適正に対応するために引き続き取組を進める必要がある。 ● 歴史的・文化的環境の保全について、今後も、伊勢の環境文化の発信や良好な景観形成の推進を継続する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓良好な生活環境の確保のための空家対策 ✓安全安心な生活環境（再掲） ✓居住者の多様化や高齢化への対応 ✓伊勢の環境文化の発信 ✓良好な景観形成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大気、水資源、自然の景色や歴史文化に関する満足度が高く重要視しており、本市の魅力として保持していく必要がある。（市民・学生アンケート「問4 伊勢市の現在の環境に対する満足度および重要度について」資料1-3 P6,41より） ● まちなみの清潔さや美しさへの改善を求める傾向が見られる。（市民・学生アンケート「問4 伊勢市の現在の環境に対する満足度および重要度について」資料1-3 P3,38より） ● 伊勢市が今後重点的に取り組むべき分野・施策として、環境文化を活かした都市・快適環境の確保は継続的に重視されている。（市民・学生アンケート「問11 伊勢市が重点的に取り組むべき分野について」資料1-3 P17,52より） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓伊勢の自然景観と歴史文化の保全 ✓まちなみの清潔さや美しさ ✓快適な都市環境の保全

分野	まとめ	社会動向等		伊勢市の環境の現状		取組状況調査結果		市民等意識調査結果	
		現状と課題	キーワード	現状と課題	キーワード	現状と課題	キーワード	現状と課題	キーワード
共通基盤分野	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々な主体による環境活動への参加を促すことが重要であり、異なる主体間の連携・協働をより一層推進することが必要。 ● 子どもから大人までのあらゆる年齢層に対し、質の高い環境教育・環境学習の場を提供する必要がある。 ● 市民が環境活動に参加しやすい環境をつくるために、市民一人ひとりが環境に関する多様な意識や条件に対応した支援ができるように推進体制を構築することが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ● SDGs やパリ協定など、国際社会や国等の目標の一端を担っていくため、一人ひとりが環境の課題を理解し、取組に参加するための啓発や仕組みづくりが必要。 	<p>✓様々な主体との協働による環境保全活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 皇學館大学と連携した出前講座等を実施しており、環境教育の充実を図っている。 ● 市民・事業者・行政からなる伊勢市環境会議にて、各主体が知恵を提供し合い、協働による取り組みを実践することにより、伊勢市の環境保全・向上を目指している。 	<p>✓環境活動を推進する人づくり</p> <p>✓様々な主体との協働による環境保全活動（再掲）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもから大人までのあらゆる年齢層が学べる環境教育を展開するとともに、講座内容の質的向上、提供企業等の新規開拓等により更なる充実を図る必要がある。 ● 今後も、環境教育等の推進のために、地域や企業・関係機関等と連携できる体制づくりを進めていくことが必要である 	<p>✓様々な世代に対する環境教育</p> <p>✓質の高い環境教育</p> <p>✓様々な主体との協働による環境保全活動（再掲）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● SDGs 達成に向けた取組をさらに、加速化させることが重要であるため、SDGs に関する意識の向上に努める必要がある。（市民・事業所・学生アンケート「問1 SDGs（持続可能な開発目標）について」資料1-3 P2,22,37より） ● 市民のライフスタイルや事業形態等に配慮した参加しやすい環境保全活動の仕組みや支援を検討する必要がある。（市民アンケート「問9 市民活動に取り組んでいない、取り組みたくない理由について」資料1-3 P14、事業所アンケート「問6 環境保全に取り組む上での課題について」資料1-3 P26より） 	<p>✓国際社会動向などの反映</p> <p>✓市民・事業者のニーズの反映</p>